

事業名

海からのメッセージ

団体名

国立大隅青少年自然の家

背景
・
課題

少子化や核家族化、デジタル化やアフターコロナ等、社会情勢が大きく変化していく中で、子供たちのリアルな体験不足に拍車がかかっており、体験活動そのものに関心を示さない子供の割合も多くなっている。

また、不登校など、心に悩みを持つ子供について、将来の社会的自立に向けた支援や他者との関わりを持つ機会が十分とはいええず、ウェルビーイングが阻害されている。

事業趣旨

水深200mの深海を持つ雄大な鹿児島湾（錦江湾）を舞台にした、5泊6日の長期キャンプを実施する。鹿児島湾（錦江湾）横断という最終ゴール到達のために、カヌー体験、野外炊事、テント泊などの自然体験活動を通して、成功体験や課題に立ち向かう姿勢など青少年の自立を支援したい。また、異年齢との交流を通して、新たな価値を創造する力、対立等を克服する力、責任ある行動をとる力等の育成も狙いとしたい。さらに、不登校や発達障害などの困難を抱える子供を積極的に参加させることにより、ウェルビーイングが阻害されている状況を打破し、子供の幸福度や自己肯定感を向上させたい。

事業の内容

1. 実施に係る体制

(1) 講師：4名 (2) 国立大隅青少年自然の家職員：9名 (3) 施設ボランティア：3名

2. テーマに基づいた試行、検証等の方法

(1) 長期自然体験活動が及ぼす小中学生の生きる力の向上
(2) 活動時や生活時における小中学生の水分補給状況と適正水分摂取量の確立による安全意識の向上

3. 活動の内容

(1) 実施期間：7月23日（火）～28日（日） 5泊6日
(2) 実施場所：新城海の家、鹿屋体育大学海洋スポーツセンター、神川地区公民館、休暇村指宿キャンプ場
(3) 参加者属性・人数：心に悩みを持つ児童・生徒を含む小学5年生～中学3年生18名
(4) 具体的なプログラム内容：事前オリエンテーション、テント設営、野外炊事、カヌー漕艇（総漕艇距離33.4km）、磯観察、SUP

成果及び今後の展開

1. 成果

(1) 長期自然体験活動が及ぼす小中学生の生きる力の向上

- ①生きる力および3つの上位能力は、全て事業後に向上した
- ②自己肯定感は参加者の7割以上にポジティブな変化が見られた

(2) 活動時や生活時における小中学生の水分補給状況と適正水分摂取量の確立による安全意識の向上

- ①カヌーアクティビティ中の脱水量推定式の作成
- ②就寝中における脱水量の把握

2. 今後の展開

計画策定及び活動選定のための視点

- (1) 参加者のIKR初期値分析
- (2) 適切な実施時期の検討
- (3) 荒天時の代替活動の検討
- (4) ボランティア事前研修の充実
- (5) 外部による協力体制の確保

